

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
クリティカルケア看護学実習Ⅱ(診断・治療学実習)	2	前期	3	実習 135時間
担当教員	松本幸枝、中島洋一、路璐、飯塚裕美、酒井武志、不動寺純明、林淑朗、植田健一、水上暁、田中美千裕			
授業概要	クリティカルケア看護学特論Ⅰ～Ⅳ、クリティカルケア看護学演習Ⅰ～Ⅲの学修をもとに、専門的な病態判断能力と療養生活における問題解決能力を習得する。			
授業目的・目標	ICU、ER、および手術室など、クリティカル状況下にある対象者の臨床推論やフィジカルアセスメントによる臨床診断・治療について、医師の診察・治療場面に同席し、専門的な病態判断能力と療養生活における問題解決能力を習得する。また、質の高いケアを提供するために、多職種と協働する能力を養う。			
履修条件	クリティカルケア看護学特論Ⅰ～Ⅳ・クリティカルケア看護学演習Ⅰ～Ⅲを修得していること。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関心領域のクリティカル状況下にある対象者を診療する場(ICU・ER手術室及びカテーテル室・HCU・関連病棟)で医師と供に対象者の診察を行い、診断・治療方針の決定に至る思考プロセスを説明し、医師からのコメントをもらう。 2. 様々な診療技術や病態生理学の知識及び臨床薬理学の知識を活用して、クリティカル状況下にある対象者の重症度や回復の状態についてアセスメントする。 3. 医学アセスメントをもとに、対象者の生活に及ぼす影響を看護の立場からアセスメントする。 4. 他職種と協働し、必要に応じてカンファレンスを行いながら問題解決への方略を検討する。 5. 診断・治療に必要な実践・連携等を通して、高度実践看護師として活躍する上での課題を明確にできる。 6. 実習終了時、教員とカンファレンスを実施し、ディスカッションを通してクリティカル状況下にある対象者の治療や処置、診断プロセスについて理解し、医療チームにおける高度実践看護師の役割について考察する。 			
教科書	特に指定しない。			
参考書	適宜紹介			
評価方法・基準	討議への参加度(20%)、レポート(80%)とし、総合的に評価する。			
事前・事後学習	事前学習：実習前に提示された資料を読んでおく。 事後学習：実習の後関連した文献等を含め、実践を振り返り考察する。			
備考	実習場所：亀田総合病院 実習期間：2024年5月～6月の間の3週間(5日/週×3週間)			